船橋税務署長賞

税金が生きるエネルギーに

船橋市立海神中学校
第一学年　福島　海斗

「障害雇用安定助成金」という税金から障害者の人が働くことを支援する仕組があるのを知ったのは、小学校四年生の時です。

僕の母の会社では、家族が会社を見学できる日があり、訪問したときに、体の半分が麻痺している人や、片手が無い人が働いているのを見ました。その人たちは、会社で働いているのに、助成金をもらっていると聞きました。そのとき僕は、国が直接お金をあげれば、働く必要がないのではと思いました。

それから三年が経ち、今年の夏、テレビで社員の七割が障害者の会社があることを知りました。その会社では、それまで障害者の方を雇ってはいなかったのですが、近くの養護学校の先生が、何度も生徒を働かせてくれないかと相談されて、最終的に「採用してくれとはお願いしません。せめてあの子たちに働く体験だけでもさせて欲しい。そうでないとこの子たちは、働く喜び、幸を知らないまま施設で死ぬまで暮らすことになります。」という言葉に社長は心を打たれ、働いてもらうことになりました。

当初一週間だけという約束で働いてもらうことにしたのですが、約束の一週間が過ぎたときに会社の社員が働きぶりに感動し、社長に社員にして欲しいと頼みこんできたため、正社員として働いてもらうことになったそうです。

でもその社長は僕と同じで、学校にいて、働かないでいれば楽ができるのではないかと思い、知り合いのお坊さんにこのことを質問したそうです。お坊さんの答えは「幸福とは①人に愛されること、②人にほめられること、③人の役に立つこと、④人に必要とされることです。そのうちの②③④は働くことによって得られるのです。」と言われました。僕もそれを聞いて、自分の考えが足りないことを知りました。障害を持っている人は、今まで人に頼ることが多かったと思うので、人の役に立つことが何よりも幸せと感じたのだと思います。生産性は高くなく合理的ではないかもしれませんが、税金だからこそ、このような生きるエネルギーとなる使い方もできるのだなと思いました。

僕も働くことになったら納める税金が人の生きるエネルギーになったらいいと思いました。